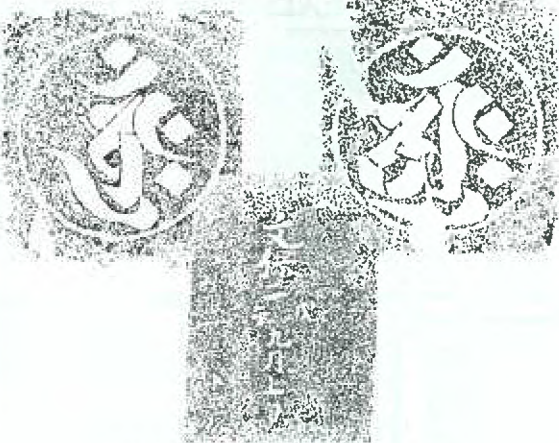


太宰府の文化財

461

宝満山磨崖仏 — 第一号磨崖梵字仏 — 鎌倉時代後期

本市の北東部にある宝満山（標高829m）の山中に露頭している石の崖に、磨崖仏と呼ばれる仏を示す種子（神仏を示す梵字）が数カ所彫られています。そのうちの1つは現在、中宮跡と呼ばれ、絵図には大講堂があったとされる場所（標高800m付近）の北側に鎮座する巨岩に彫られています。江戸時代の書物『筑前国続風土記附録「竈門山神社図」』によ



宝満山第一号磨崖梵字仏拓影
(小西信二氏提供、

『太宰府市史 建築美術工芸資料編』掲載)



宝満山磨崖仏第一号磨崖梵字仏

す。これらは莊嚴体とも五点具足ともいわれる特別な種子で、元の種子は胎藏界大日如来を示す **ア** (ア) と金剛界大日如来を示す **バ** (バ) (※)です。この種子の中央下に以下の銘文が彫られています。

工彫藤原廣□□ 文保二戊午九月

上旬 法眼幸榮十六度

これにより、この磨崖仏は藤原廣

□(※)は文字不明)という石工に

よって彫られたもので、彫られた年

は、文保2年(1318)九月上旬で

あること、また依頼者は、法眼幸榮と

いう修験者(山伏)で、おそらくは彼

の入峰16回目の記念として彫られた

ものと考えられています。

今回は彫られた種子からこの磨崖

梵字仏について考えてみたいと思

います。2つの種子は大日如来とい

密教教主の慈悲を表す胎藏界と智慧

を表す金剛界という2つの曼荼羅

(仏の世界)を示しています。この2

つの世界を併せて両部、両界、金胎と

言い、2つの世界が一体という意味

で金胎不二とも称せられています。

胎藏界の根本仏教経典は『大日経(大

毘盧遮那成仏神変加持経)』で、金剛

界の根本経典は『金剛頂経』です。こ

れら両部を重要視するのは真言密教

とされています。両部の種子を並べ

る磨崖仏は全国的に見ても少数で貴

重です。最澄、円仁以来、天台宗と縁

が深い宝満山ですが、この磨崖梵字

仏をみると真言密教との関わりも感

じられ、宝満山の初期修験道の成り

立ちに関係する重要な文化遺産であ

ることがわかります。他にも14世紀

前半には両部神道、真言神道と呼ば

れる神仏習合思想に基づいた真言宗

系の仏教神道も誕生しているため、

修験道のなかでこれらの両部(金胎)

種子がどのように取り入れられたか

など不明な点も多く、今後も研究を

進めていくことが肝要と思われるま

す。

宝満山磨崖仏の他の事例は明治の

廃仏毀釈により破壊された例が多

く、完全に残っているものはわずか

です。残された貴重な文化遺産の研

究を進め、文化遺産を次世代に確実

に継承していくことが必要です。

文化財課 高橋 学

注 法眼とは法眼和尚位の略称で、僧位の第2階です。備階での僧都にあたります。